

令和6年度 倉敷市公民館等運営審議会議事録 要旨

〔開催日時〕 令和6年7月19日（金）14：00～15：46

〔開催場所〕 ライフパーク倉敷 中ホール

〔出席者〕

委員：11名

赤木恒雄、浅野泰昌、浅原耕一、大西恵子、片山典子、川上富子、児玉あゆ子、鮫島正、竹田照美、百本恵子、若林昭雄

事務局：11名

早瀬教育次長、森生涯学習部長、田中市民学習センター館長（兼ライフパーク倉敷所長）、山崎館長代理、藤田主幹、八木主幹、森下副主任、三宅倉敷公民館長、平松水島公民館長、白神児島公民館長、守屋玉島公民館長

傍聴者：なし

〔欠席者〕

委員：2名

清水正江、渡谷元子

〔議事〕

1 開会

- ・早瀬教育次長挨拶
- ・委嘱状交付
- ・各委員自己紹介
- ・開会宣言

委員の出席が過半数に達しているため、審議会として成立していることを確認

赤木会長挨拶

会長を議長として議事進行することを確認

2 議題

- (1) 令和5年度事業報告について
- (2) 令和6年度事業計画について
- (3) その他

3 閉会

浅野副会長挨拶

<資 料>

- 令和6年度倉敷市公民館等運営審議会資料
- 令和5年度倉敷市公民館等運営審議会議事録

<参考資料>

- 質問一覧
- 倉敷市公民館等運営審議会条例
- ライフパークEYE（市民学習センター講座広報誌）
- 学習へのいぎない（公民館講座広報誌）
- 夏講座案内チラシ（公民館講座）
- SNSの紹介チラシ（Youtube（倉敷市e公民館）、インスタグラム（各基幹公民館））
- 公民館グループ一覧

〔議 題〕

（1）令和5年度事業報告について（説明：事務局）

（事務局説明）

- （1）会議室等施設利用者数 442,341人（対前年度比5%増）
- （2）図書コーナー、図書室利用状況 126,015人 図書貸出数 243,628冊
- （3）倉敷公民館音楽図書室利用状況 2,394人
- （4）公民館グループ登録数 577グループ登録
- （5）公民館講座 開講808講座 受講者13,882人
- （6）公民館主催事業テーマ別講座開講数

（10）Wi-Fiサービス提供開始について

令和5年9月、基幹公民館と地区公民館に、会議室・ホール利用者が利用できるWi-Fi環境を整えた。

利用頻度（令和5年9月～令和6年5月）

- ・倉敷公民館及び水島公民館…7回/月
- ・地区公民館…1公民館あたり2回/月

※モバイルWi-Fiルーターを各基幹公民館へ2台ずつ配備し、必要な地区公民館へ貸し出す形で運用

（11）事業総括について

地元の高校生とともに講座の企画を行う、高校生が小学生向けに講義を行うなど、世代間の交流を図る取り組みを始めている公民館も出てきている。

参加者の意識を地域課題や持続可能な地域づくり、つながりづくりに向かわせる事業も徐々に増えてきていると考える。

公民館の施設整備では、倉敷市公共施設個別計画に基づき下津井公民館と下津井市民サービスコーナーを複合化、令和6年1月10日から運用を開始した。

(委員事前質問①)

フリーWi-Fi導入の予定はあるか。会議室等の利用者以外の人でもWi-Fiが利用できるようになれば、市民の学習機会が拡大すると思う。

(事務局回答①)

フリーWi-Fi導入について、現時点で予定はない。ただし、Wi-Fi環境整備は、ICTを活用した学習機会を拡げることに役立つものと考えているので、公民館の設置目的や利用状況を勘案しながら、公民館のWi-Fi環境のあり方を検討していく。

(委員事前質問②)

公民館の館長には男性が多いような印象がある。実際に男女の割合がどうなっているのか。
また、ジェンダーギャップの解消に向けた取組みはされているのか。

(事務局回答②)

公民館長の男女の割合は、今年度は28館全員が男性となっている。過去を遡っても、女性館長は多い年で3名で、割合にすると多くて1割という状況である。一方で公民館指導員は、倉敷公民館の音楽図書室に音楽の専門分野で1名男性がいるだけで、残り70名全員が女性となっているので、公民館ごとではバランスがとれているのではないかと考える。

(委員事前質問③)

7月・8月の講座について、夏休み期間だからだと思うが、この期間の講座のほとんどが子ども向けになっている。一般(大人)対象のものがなくて寂しく感じている人もいるのではないか。大人向けの企画も検討していただきたい。

(事務局回答③)

夏講座では、親子で一緒にモノ作りをするものなど、学校での学習とは違った体験型の楽しい講座を、各館工夫を凝らして開催している。夏休みは、春講座も終盤となり一般向けの講座が少ない時期となるが、日ごろ公民館を利用する機会の少ない子どもたちが参加できる絶好の期間であり、公民館に親しんでもらえる良い機会だと考えて取り組んでいる。

また、市民学習センターでは、「夏の子ども向け講座」の中にも、「子どもも大人も楽しい☆切り子ちょうちん作り」や「はじめての手話講座」など、小学生以上の一般を対象として、世代交流のできるものも企画しているので、受講いただけたらと思う。

(委員事前質問④)

住民の多様化に伴って、外国出身者への対応も地域の重要な課題であると思っている。今年度は、市民学習センターと玉島公民館で外国人に焦点を当てた講座が実施されているようだが、既に終了したものについて、受講者数や講座の評判など、担当者の感想でよいので、教えていただきたい。

(事務局回答④)

5月19日のくらしき市民講座『「やさしい日本語」で外国人とコミュニケーション～みんなが暮らしやすいまちづくりに向けて～』については、12人が受講し、半数の6人が初めての受講であった。10代から80代まで幅広い年齢層の日本人受講者と、5人の外国人協力者とが、積極的なコミュニケーションを図っていた。

受講者からは「仕事や進路に活かしたい、ボランティアをやりたいと思った」という声があり、「受

講師の学びや行動変容につながる講座になったと思う」とのことである。

また、担当者からは、「在住外国人も地域の一員である」という講師の言葉が印象的で、「今後、地区公民館等で、その地区に暮らす外国人の方に協力していただき、同様の講座を行うと良いのではないか」という感想があった。

(委員事前質問⑤)

水島、児島、玉島各地区の公民館では、高校生が講師を務めるなど学校と連携した講座が実施されているが、送付された資料を見ると、児島地区の今年度の事業予定にこのような講座が見当たらない。世代間交流の促進に効果的だと思うので、実施が見送られたのなら残念である。

差し支えなければ、その理由をお聞かせいただきたい。

(事務局回答⑤)

令和6年度事業予定の児島地区の事業特色の中で、「個人が世代間・多文化間でつながりあい、時代や地域のニーズに応じた講座内容の向上と充実を図る。」と記載しており、主要講座には取り上げていなかったが、「創造力無限大！紙を自由自在につなげちゃおう！～造形遊び～」という小学生が受講対象の講座で、岡山県立倉敷鷺羽高校の生徒6名が講師を務める、学校と連携した講座を児島公民館の夏講座で実施する。

小さな紙を自由自在に貼ったり、繋げたり、平面や立体を思うままに作る。手がけるまでのきっかけ・ひらめきを高校生に導いてもらい、問題が起きた時は解決策を一緒に考えるなどコミュニケーションをとることで異年齢との関わりも経験できる。

また、高校生には講師の立場で講座の組み立てと進行をお願いしており、講座を成功させるためにはどうすれば良いかを高校生同士で協議し、実行してもらうことで、主体性、実行力、働きかけ力を培える機会となる事を期待している。

(委員)

高校生が講座をやるのは、非常にいいこと。中学生を交えることはできないか。

倉敷市全体で、例えば公民館等でまとまって、基幹公民館でやっていただければと思う。

前向きな中学生高校生がいると思うし、若い世代の言葉は非常に必要ではないか。

(事務局)

児島公民館は、鷺羽高校の生徒に講座をお願いしている。人権学習推進事業では、児島中学校の吹奏楽部の生徒が演奏に来ることはあったが、中学校との連携まではできてない。今後検討かなと思う。

(委員)

利用者が高齢者、女性に偏っていて、若い人たち、中高生が全然利用してないと感じる。

若い頃、小さい頃に公民館を利用していた人たちは、大人になっても公民館を利用している。

公民館事業に、特に中学生高校生を引き込んでいくことができればと思う。

(事務局)

児島公民館と鷺羽高校の事例以外にも、古城池高校と福田公民館、翠松高校と倉敷東公民館など、公民館と地域の高校が連携した活動も徐々に増えてきている。地域に貢献していくんだという気概を持った先生方、生徒もいる。そういう人たちを捉えて、若い頃から公民館に来てもらうきっかけづくりにもなればいいと思い、そういう働きかけをしているところである。

まだまだ広がりがないかというところもあるが、もうしばらく頑張っていきたい。

(委員)

仁科教育長が就任時から「地域と公民館は大事」、「全中学校区にある非常に貴重な施設」と言われていた。1年経って、取り組みを始めていると思うが、もう少し良い答えを期待している。

(事務局)

講座は、まず高校と連携ということで、高校の生徒が地域の中でいろいろな課題を見つけながら講座の内容を企画している。その中には地元中学生も参加することもあり、中学生高校生、また地域の高齢者の方々と一緒になって、福田公民館、福田南公民館、玉島西公民館等で、地域の課題解決を考えていくという流れが始まっている。

まだ発展途上というか、頑張っているところなので、よろしく願いたい。

(事務局)

中学生の難しいところは、やはり勉強中心なので、なかなか公民館ばかり行ってはおれないというところがある。高校生の方が社会参画の色合いが強いので、公民館のイベントにも参加しやすい。学校としても参加しようという意思が強い。

春・夏・秋開催の主催講座は、上手に小中高生が入れるような講座を地区館ごとに一つ二つずつ考えてきている。

(事務局)

水島地区では、中学生は、水島中学校と連携して、外国料理や人権学習推進事業の活動の中で、外国との交流と一緒にしてもらったりしている。

高校生は、学校の授業の一環で、古城池高校と福田公民館が連携して、いろいろな講座に取り組んでいる。

(委員)

小学校は、学習指導要領で、博物館等と連携した学習会のような学外連携の活動をしているのではないか。

(委員)

校外学習で、博物館に行ったり、公民館等の仕事を知るために、校外学習に行ったりすることはあるが、連携という形ではどうだったか。私が今まで行っていた学校の近くの公民館では、人権ポスターとか標語とか子どもの作品を展示して下さったり、料理教室や人権の講演会等を開催して下さったり、そういう限定したもので利用していたことはあった。

(委員)

矢掛町のある小学校では、すぐそばに公民館があって、できるだけ利用して、学校運営協議会にも公民館長が入っていて、公民館をどう運営していくのかという議論と一緒に参画していた。

(委員)

学校運営協議会、コミュニティスクールなら、公民館長さんが入ったり、公民館の場所をお借りしたり、そういう連携はあったと思う。

(事務局)

倉敷公民館のすぐそばに倉敷東小学校があるが、人権の授業の総まとめでビデオを見るときに、せっかく近くにあるからということで、公民館の大ホールの大画面で見るとは時々やっている。

(委員)

コロナを境に積極的に高校生世代が、公民館をよく使うようになったと思う。

学校関係者も、近くの公民館を使いたいというような思いがあるのではないか。

倉敷は小学校、中学校、高校の近隣に公民館があると思うので、学校に連絡して近くの公民館を有効に使ってもらうよう提案してみてはどうか。

(委員)

仁科教育長が、「ただ単に子どもたちが使うのではなくて、地域の人と子どもたちの関わりをとて大事にしたい」、ということを常々言われている。子どもたちが地域の大人たちと一緒にやっていくような企画が生まれるような取り組みをしていただきたい。

(委員)

高校生ぐらいになれば自分たちで企画ができるので、中学生もそこに参加できると思う。

単にお膳立てされた企画に参加するのは、飽きてくるので、できるだけ高校生自身が企画する方へ持っていけば、子どもたちも喜んで参加するようになるのではないかと思う。

(委員)

Wi-Fiについて、5ページ(10)で、児島と玉島が抜けているが、施設が市民交流センターに合併した関係で抜けているということか。児島も玉島も新しい施設なのでWi-Fi設備はついていると思うが、どのくらいの利用があるのか知りたかった。

(事務局)

お見込みのとおりで、玉島と児島の公民館が入っている市民交流センターには館内のWi-Fi環境があり、児島公民館は各部屋のみで、玉島公民館は各部屋に加えてロビー等で使用できると聞いている。こちらでは、実績がわからないので省略した。

(事務局)

玉島公民館は、スマホ講座で市民交流センターのWi-Fiに接続し、講座をした実績はある。フリーWi-Fiの利用状況については、公民館では把握していない。

(委員)

若い人たちが交流するにあたり、いろんな講座がいっぱいあるが、子連れでは行きづらいと思う。

私たちも公民館を借りて拠点活動で講演等をするときに、託児部屋を一つ借りている。そうすると若い人たちもどんどん参加できる。

市民交流センターには託児部屋、子どもたちが遊べる部屋があるが、公民館にもそういう部屋があったら、また託児付き講座が増えたら、より若い人たちに利用が広まるのかなと思う。

(事務局)

現在、託児つき講座をやっている公民館がほぼない。

講演会等では、できる限り部屋が空いておれば、託児部屋のように使ってもらえるよう努力はしている。今後、今日のご意見を参考にさせていただきたいと思う。

(委員)

若い女性を対象とした学習の場合、託児制度を取り入れないと、小さい子どもがいるというだけで、そもそも学習会に参加できないという状況で出てくるので、そこは積極的にカバーしてほしい。スペースの問題はあるだろうが、対応できると思う。実態はどうなっているか。

(事務局)

水島公民館は、託児室というのは特にないので、貸館では、主催者が講演会等の会場とは別に部屋

を借りて、託児ルームあるいは授乳室やおむつ換えの部屋等として活用している。

主催講座の場合も、保護者同伴という形の講座にして、おむつ交換等の必要があれば、予め別に用意した部屋を活用してもらっている。

(2) 令和6年度事業計画について（説明：事務局）

（事務局説明概要）

防災に関する講座、高校生と運営する講座、地域を知る講座などを予定している。

一部の講座の様子は、インスタグラムを使って発信していく。

施設整備事業は、倉敷市公共施設個別計画に基づき、老朽化した施設の設備の改修、公民館の長寿命化、複合化に向けた事業に取り組む。

市民学習センターは、バーチャルリアリティーを使った防災行動心理学の講座、倉敷市e公民館での動画配信、公民館の複合化事業等に取り組む。

各公民館は、地域について学ぶ講座、情報格差の解消につなげるスマホ講座などを順次開講する。

地区公民館講座でも電子申請での受講申込受けができる体制（システム環境）が整い、7月14日から運用開始した。

市民学習センターは、「ライフパークの集い」「第46回くらしきこどもまつり」等の開催を予定している。

各公民館では、10月から11月にかけて、公民館祭を開催する予定である。

公民館等の複合化を予定している船穂公民館、茶屋町公民館、真備公民館、水島公民館については、老人憩いの家、まきび荘などの施設の所管課との協議を進める予定である。

（委員）

市民学習センターの「逃げ遅れゼロへ！VRで学ぶ防災行動心理学」等、開催済み講座の反響を教えてください。

（事務局）

VR映像を再生できるゴーグルをつけて、例えば土石流が迫ってくる様子、洪水で水位が上がってくる様子等、自分が災害に巻き込まれた時の状況を疑似的に体感できる講座で、自分は大丈夫だろうという心理（正常性バイアス）が働いて、逃げ遅れてしまう状況になぜ陥るのか等について、心理学の講師から解説を聞いたあとに、各自VR映像で災害の怖さを実感した。

受講者からは大変好評で、VRで疑似的に災害に接して、思わず体が後ろへ退いてしまうような反応も味わうことができ、災害についての怖さをリアルに体験できるような講座であった。

（委員）

VR（バーチャルリアリティー）は最近の流行りであるし、見ていたら本当にわかりやすいようなので、今後もこういう講座を進めていただければと思う。

（事務局）

防災関係の講座は、6年度に、全公民館で18講座を、いろいろな取り組みの中で開催予定である。来年度例えば、防災講座だけまとめて実績報告をさせていただこうと思う。

（委員）

公民館は、災害時の避難所になるか。また、今後、様々な災害があるときに、公民館が防災の拠点となるような構想があるか。

(事務局)

児島、玉島を除く市内26公民館、真備地区にある8分館が避難場所に登録されている。

市の防災危機管理室等で、市内学校も含めて、大雨の時の避難所、地震の時の避難所というような分類をし、優先的に開ける避難場所等の運用を計画、実施していると思う。

避難所開設情報等については、公民館にも防災メール等で順次連絡が入ってきて、それを受けて、対象となる公民館を避難所として開設できるように手配し、避難所の担当職員と連携できるような体制をとっているところである。

(委員)

そういう運用であれば、防災に関する講座は、重要だと思う。

18講座ということだが、それぞれの地域によって、液状化の被害、津波の被害等、住民の被害内容が違い、各公民館の防災講座それぞれに求められる内容も異なると思う。多種多様なニーズに合ったものを企画立案して、市民にとって有用性の高い講座を展開することが重要だと思う。

また、Wi-Fi設備は、整えておくべきで、避難所できちんと正しい情報を得ることが求められるよう、社会教育のみならず防災のためにも重要な資源、設備として、措置していただきたい。

あと、公民館は、万能な器でなくても良いと思う。その得意分野があって、お年寄りの方が講座を受けるのに得意な器もあれば、若いお母さん方が行きやすい子育て支援センターのような器もあり、高校生が集いやすい、勉強しやすい図書館のような器もあって、やはり役割を分担し合って、相互補完型で、社会教育施設というのは、他と共栄共存すればいいのではと思う。

そのうえで利用者の年齢層がわかった方が、分析もしやすいと思うので、どれぐらいの年齢層の方が、公民館を使っていたか、その人数だけでなく、具体的な内訳とかも、取っていただくと、こういった場での議論で、論点が見えるのかなというふうに考えた。

(委員)

公民館が、その地域の核なのであれば、公民館と提携して防災もどんどんやっていくべきだろうな、というのは、私の考え方。だから地域の課題というのが、一つ大きなものがあり、それから住民の学習要求というのがあると思う。その二つを、満遍なくやっていると。地域の課題というのは、「人がなかなか集まらない」ことだろうと思うが、それは絶対やっていけないものであろうと思う。それを考えた場合に、ちょっと偏りがあるのかなと思ったりもする。

(委員)

主要講座一覧を見ると、いろんなジャンルの講座を用意していることがわかるが、毎年どんなふうに決めているのか。

(事務局)

それぞれの公民館で指導員と館長が相談しながら決めている。

公民館指導員が、地区のニーズに合った企画を取り入れながら、いろんなジャンルを計画している。

(委員)

児島公民館赤崎分館を利用して様々な団体やグループの活動をしているが、そこのエアコンがしばらく故障したままになっている。5月ごろからいろんな団体の総会をしているのだが、ずっと故障中と張っており、館長にお願いしても、なかなか無理と言われた。

たぶん古いから部品等が無くて修理ができないということなのかもしれないが、そうであるならば、新しいものを付け替えるとか、何か対応していただけないものかと思う。

(事務局)

今日は技術職がいないので、あとで早急に現場を見に行かせる。

暑い中、本当に申しわけないと思う。

(委員)

地区館、分館の施設の備品等が壊れた場合、公民館の予算で全部直しているということで良いか。

(事務局)

分館を含めて、公民館の方の予算で、修繕等を行っている。

(委員)

防災でも各町内の活動拠点になっているので、そこに集まっているが、この暑い時期にエアコンがないと、本当にいつ何どき誰かが倒れるかもしれない。普通にしているだけでも熱中症で亡くなる方もいるので、早急に対応していただければありがたいと思う。

(事務局)

まだ年度の前半なのに、対応が非常に遅いこと、お詫び申し上げる。

当然どの館であれ、機械物の故障、施設の老朽化、また防災の面でも、必要なところは予算の中で手当をきちっとするべきだし、教育委員会でできるところはやっていきたい、と思っている。

(事務局)

暑くなってから赤崎分館以外にも、児島地区では下津井公民館、本荘公民館等、エアコンの調子が悪いということで、今、担当の職員が点検、修理するために、いろんな公民館を回っている。

赤崎については早急に対応させていただく。

(委員)

倉敷公民館に、音楽図書室があるが、その知名度がものすごく低い。

知名度を何とか上げたいと思うのだが、私が大学にいるときに学生を連れていっても、こんなところにこんな立派な施設があったのか、と。何か学生にもアピールできるような形での宣伝をしたらどうなるかな、と思うのだが。

今年度はちゃんと講座を開かれているとは思ったのだが、非常に貴重なものがあるのに、なかなか地元の人が知らないのが惜しいなど、ずっと前から感じている。

作陽大学なんかは、いっぱい来るのか。

(事務局)

訪問客は、倉敷のパフレット等で図書室があるのを知って来る観光客が多い。

市内の方も当然来る。普通の一般の市民の方も来るし、毎日オペラ講座だけを見に来る方もいるが、千人、二千人、五千人と増えてるかということ、増えてないのが現状である。

解決方法の一つになるかどうか、例えば小学校中学校の音楽の時間に、倉敷公民館に音楽図書室があるということを先生に話してもらおう。子どもの頃に、こういう施設があることを授業を通じてお知らせいただくのが、実は一番早いかと、思っている。

今実施しているのは、ホームページや観光パンフレットで、施設のお知らせや講座・イベント情報の発信、というような広報である。

集客が伸びないという現実もあるが、何とか知らせたいな、と、ちょっと工夫を考えたい、と思っ

ているところである。

(委員)

グループ活動、倉敷・水島・児島・玉島というふうには括ってあるが、各公民館ごとの資料を出す予定はないか。

(事務局)

ホームページで各公民館すべてのグループ500余りを公表しているの、後で資料を配付する。

《公民館グループの一覧表が委員に配布される》

(委員)

今、公民館のグループ一覧表が、配られたが、各主催講座以外にこれだけのグループ活動が実際行われていて、公民館の部屋がほぼびっしり埋まっている状況である。意外と日曜日、土曜日が、家庭でのサービスという形で活動が減ってきているというのは、以前からちょっと聞いているのだが、ほぼもう目いっぱい公民館の部屋が稼働していることは、一応、承知している。

(事務局)

先ほど委員からグループの一覧等を求められたので、ホームページにアップしている一覧表をお手元に配付させていただいた。市内の公民館には、570を超えるグループが活動しており、それぞれの公民館でグループを認定して、1年間活動をしていただいているところである。がご指摘のとおり、ほぼ活動は平日、それも夜の利用が多く、土曜、日曜については、どちらかという子ども卓球や合唱団、将棋のグループ等が、よく利用している。

(委員)

追加質問で、グループは、部屋を借りるときにお金はいらぬのか。

(事務局)

各公民館で認定しているグループについては、午前・午後・夜間の枠を1コマずつとして、1か月の間に2コマまでを減免しており、それを超えるものについては、一般の団体と同じように、使用料有料ということで使っていただいている。

(委員)

グループもいろいろ問題を抱えていて、メンバーが全然変わらない、新しい人が入らないというようなグループがいっぱいあって、それはそれで課題はあるんだということを、ご理解いただきたい。

(3) その他

(特に協議事項なし)

以上を、令和6年7月19日開催の令和6年度倉敷市公民館等運営審議会議事要旨とすることに同意します。

委員 鮫島 正



委員 百本 恵子

